

平成31年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	エイ・ビー・アンド・シー(株)	代表者	原 広子	法人・事業所の特徴	他職種との連携を図れる体制の確保が行え、サービス提供に繋がっている。 同居ができないご家庭においても、希望に応じた通いの中で、時折の泊まりを提供することで在宅生活を継続できている。
事業所名	りんどうケアヴィレッジ	管理者	林 由直		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	0	0	0	1	1	0	2	0	5

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価のテーマに沿った取り組みを行い、職員の共通認識とする。取り組みの進捗状況を定期的に確認し、運営に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認項目の求めに応じ、ミーティング等を活用し、情報共有に努めた。利用者の方の周辺情報の入手により、去年度に比べ暮らしの支えに近づくことができた。前回の意見を基に、家族の協力をもらい、客観的なサービスの評価をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>項目4「地域での暮らしの支援」における改善計画について、担当民生委員を把握する目的が利用者の生活スタイルや地域との関係を得るためであるならば、認識違いである。</li> <li>ミーティング等で共有しているつもりでも、個々の受け止め方も異なる為完全な改善は無理とされます。でも、他事業所に比較し、良く共有されていると思われま。</li> <li>防災・災害対策について事業所評価の改善計画には記載がないが、外部評価F事業所の防災・災害対策の改善計画には記載している。</li> <li>事業所自己評価の7の運営に明記し、整合性を測った方が良いのでは。</li> <li>「個人チェック集計欄」のチェック項目が毎年同じで良いのか？「次回までの具体的な改善計画」の項目ができたか？できなかったかを評価するのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き利用者の周辺情報を入手する事で、馴染みの暮らしに近付ける。</li> <li>防災対策等に加え、感染症予防に力を入れ、安心した事業所利用に繋げる。</li> <li>チェック表は標準様式を用いているが、項目に沿った様式（又は項目）があれば参考に変更する。</li> </ul>

<p>B. 事業所のしつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出入口の施錠はせず、開閉チャイムの運用を継続。環境衛生に努め、異臭や感染症などの予防。地域交流スペースの出入りがしやすい環境づくり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備に努め、離設予防のチャイムの設置ができた。</li> <li>・感染症予防の観点から、消毒液等による備品の衛生管理を行い、感染症の予防に繋がったと考える。</li> <li>・地域交流スペースを活用するも、「出入りのしやすさ」までには至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気に関心掛けています。更なる展開を期待します。</li> <li>・評価する会議のメンバーに、年に1回程度施設を見てもらう必要があるのではないか。</li> <li>・事務所は入りにくい様に私は思われます。ただし、今の時期にはコロナウイルスの関係上入りにくい方が良いと思います。不可解な音、臭い等は感じませんでした。</li> <li>・センサー器具の作動点検は毎日お願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔感のある施設運営を継続的に行う。（業者による定期清掃など）</li> <li>・半年に一度、運営推進会議開催時に、施設見学を提案する。</li> <li>・地域の方や利用者が出入りしやすいよう出入口の施錠せず、開閉チャイムの使用を継続し、安全な運用を図る。</li> </ul>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「プチおおいそ」へ参加し、地域との関わりを持つ。</li> <li>・事業所主催の行事に参加してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流、情報発信として「プチおおいそ」へ参加する事ができた。また、例年通り「タウン祭り」の開催が行え、地域へ情報発信と参加の促しができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりは積極的に取り組まれています。</li> <li>・施設の特徴をどの様に地域に還元するか更なるアイデアを期待します。</li> <li>・利用者の担当民生委員は町福祉課地域福祉係に問い合わせてもらえば情報提供できます。なお、12月1日から民生委員が改選されています。把握している場合も再度確認が必要だと思います。</li> <li>・地域との交流事業は積極的に実施してください。例えば「介護講習」「認知症カフェ」など。</li> <li>・コロナウイルスの流行により、現況では無理な状況になっていて地域との関わりも制限せざるをえない事態になっていて関わりを持ってない状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流と発信として、「プチおおいそ」「タウン祭り」の開催。</li> <li>・民生委員だけでなく、協力の頂ける近隣者の発掘。声掛けや挨拶を行い、事業所の認識を持ってもらう。</li> </ul>

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事だけでなく、地域の箇所へ出向き社会交流をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会交流という面では薄かったが、地域の名所に出向き、利用されている方の「懐かしい」を求めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントだけでなく日常的な繋がりをどの様に意識するか、そしてどう表現されるか、楽しみ面が多々あります。</li> <li>・項目の2と4について、ハードルの高い要求ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の外出で地域に出向き、他者との関わりを設ける。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣住民の方に参加していただき、事業を知ってもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣住民の方の参加はいただけなかったが、近隣施設のスタッフに参加してもらうことができた。自施設での困り事など、ディスカッションする事ができた。</li> </ul>	<p>”地域”という言葉が沢山聞くことができているので、職員の意識化は図られている様に思われています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣住民や施設の方に、引き続き声かけし、運営推進会議の参加を促す。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛消防、避難訓練の実施。</li> <li>・地域で開催される防災訓練に参加。</li> <li>・防災備蓄品のチェックと交換。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回/年の自衛自消防訓練を実施し、夜間想定避難訓練を行った。</li> <li>・備蓄品の確認を行い、必要に応じた物品の入れ替えと補充を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設が地域の更なる拠点と慣れるよう期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛消防、避難訓練の実施。</li> <li>・防災備蓄品のチェックと交換。</li> </ul>